

■ 井堀 利宏著『入門経済学 第2版』(p.285-286)に関する補遺

【国際収支表についての補足説明】

わが国の国際収支関連統計は、2014年1月の取引計上分から大幅な見直しが行われた。今回の統計見直しのポイントは、(1) 2008年にIMFが公表した国際収支マニュアルへの準拠、(2) 年次改訂制度の導入、などである。見直しによって、金融経済情勢をよりの確に反映するとともに、公表計数の正確性と時系列計数の一貫性を高めるなど、統計ユーザーのニーズに資するものを意図している。すなわち、諸勘定の全体的な構造や大まかな定義は殆ど変更されず、経済・金融の動向や経済政策上の関心を考慮したものとなっている。

今回の見直しは、以下の特徴を有する。

- (イ) 対外資産負債残高、金融・資本関連統計の重視
- (ロ) 項目の共通化や部門分類の拡充によるSNAとの整合性の強化
- (ハ) グローバル化した企業構造や生産体制、金融取引の高度化等を的確に把握するためのデータの整備

* 国際収支統計の主な変更点 (次葉 参考資料の図表を参照)

《主要項目の組み替え》

- ・これまでの「投資収支」と「外貨準備増減」は統合されて「**金融収支**」となり、「その他資本収支」は「**資本移転等収支**」として「**経常収支**」及び「**金融収支**」と並ぶ大項目に変更された。「資本収支」の項目は廃止された。

《表記方法等の変更》

- ・新たな「金融収支」では資産・負債の増減に着目し、資産・負債の増加をプラス(+), 減少をマイナス(-)としている。この結果、負債(対内投資)側の符号は変わらないが、資産(対外投資)側の符号が現在と逆になる。

本変更によって、国際収支統計に係る恒等式は次のとおりになる。

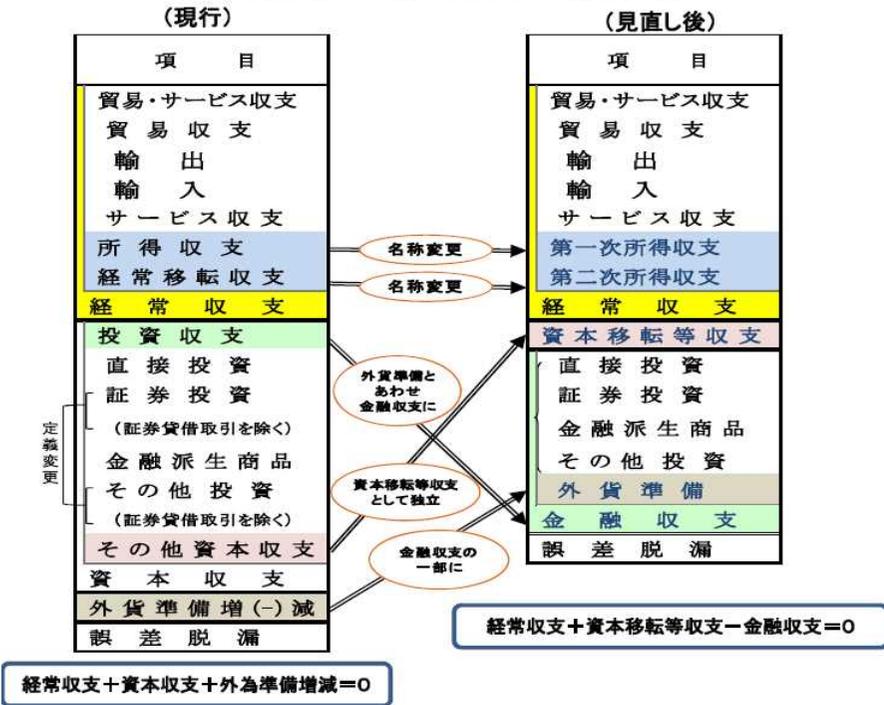
現行：経常収支 + 資本収支 + 外貨準備増減 + 誤差脱漏 = 0

見直し後：経常収支 + 資本移転等収支 - 金融収支 + 誤差脱漏 = 0

- ・現行の「**所得収支**」, 「**経常移転収支**」はそれぞれ「**第一次所得収支**」, 「**第二次所得収支**」に名称変更となった。

《参考資料》

●主要項目の組み替えと名称の変更



●符号表示の変更

		現行・投資収支 および外貨準備増減 (第5版準拠)	新・金融収支 (第6版準拠)
資産側 (対外投資)	資金流出 =資産増加	(-)	(+)
	資金流入 =資産減少	(+)	(-)
負債側 (対内投資)	資金流入 =負債増加	(+)	(+)
	資金流出 =負債減少	(-)	(-)

(参考資料出所) 財務省ウェブサイト

http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/notice/bop20131008.pdf

なお、国際収支状況の新しい公表様式の詳細については、財務省ウェブサイト

http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/notice/osirase_20140228.htm

を参照のこと。同サイトには、平成25年(2013年)までの計数を新たな基準に遡及して組み替えた計数の概要(総括表・暦年)も掲載されている。http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/notice/summarycy.pdf